

## 日本白鳥の会 配付資料

日本白鳥の会 荒尾 稔

### 1 関東地方への大規模な雁・鴨・白鳥の再度の越冬地形成に意欲を燃やしています

まず、候補地エリア、その方法論、スケジュール等が、段々と見えてきました。まず、水の問題と、餌の問題に突き当たります。

### 2 雁・鴨・白鳥の越冬には、その一つの条件として、冬期湛水水田（冬・水・田んぼ）

冬期湛水水田の存在と、広がりが必要で、もしかしたら、この稲の生きた根っこは、冬期湛水水田によって無尽蔵にありえる可能性が高く、今後最も重要な要素ではないかと思えます。この稲の根っこは初夏まで元気に生きているのが特徴です。昔の農法では冬・水・田んぼは当たり前のことでした。

関東地方で言えば、江戸時代には手賀沼、印旛沼周辺で越冬していた150万羽に及ぶ雁・鴨・白鳥群が、現在は5万羽を切っています。その違いはなにかを突き詰める

### 3 関西、中国、四国、九州への大規模越冬地形成へのロマンも

- (1) 韓国での大規模な湾埋め立て工事による漁夫の利みたい話しですが、雁・鴨・白鳥が激増中とのこと。
- (2) そのため、数年を経ないで、上記地帯に個体群レベルでの越冬地 大規模越冬地の形成の可能性と必然性があります。
- (3) 現在、すでにその一部個体が日本に渡来しだしているが、受け入れ能力が欠けてます。餌場形成、休息地、アマチュアカメラマンの存在等が問題点。
- (4) 渡来した個体群が、銃猟等で危険に遭遇しないか、個体群が十分に餌を取れて帰北出来るかが重要です、

### 今後の課題として

#### 1 日本白鳥の会の皆様。

メーリング環境としては、janetへの登録手続きの件、よろしくお願ひいたします。  
入会には、当方、または神谷さん等へお申し出下さいますようお願い致します

#### 2 環境省インターネット自然研究所「全国ガンカモ渡来調査(IISS)」を利用、白鳥の全国動向調査を提案します

- (1) IISS入力フォーマットを簡略化しました(excel入力を基本とします)。個体数動向を把握する上で、必要な基本データを、IISSからexcel形式で出力ください。参考に、IISS入力フォーマットを簡略化した白鳥用の入力サンプルを提示します。(excel入力を基本とします)
- (2) 白鳥データを記入して、メールを介して、データを送信してください。過去のデータの有効です

#### 3 全国で、月1回の定点観測の提案します。あるいは、11月、3月の定点調査を開始する

#### 4 白鳥群への餌付け問題の解決策として

- (1) 餌付けとの関連で餌付けより救餌が必要に。都会地では、鴨等への積極的な救餌も必要になってきています
- (2) 救餌の餌の選別も必須に(パン類から、くず米等への転換と、餌付けから救餌への転換、環境を汚さないことを重視する)
- (3) 親の体力維持と、幼鳥の自立した餌探しの支援姿勢。白鳥群が、北帰出来るだけの栄養確保と、繁殖地での縄張り形成が出来る力、子どもを育てられる体力が維持できるかに関わっている。
- (4) 餌付けから、救餌へ、さらに自立へ

山形県

福島県での事例 猪苗代湖での事例 及びいわき市での例

千葉県本埜村での事例

## 5 餌付け解除への方法論として提案しています

まずはじめに、渡来初期の、朝の餌を断って下さい。

- (1) おなか为空くので、白鳥たちは近辺から採餌に出かけます
- (2) 夕方は、決まった時間に餌を与えて下さい  
それによって、埒としての位置づけの確認になり、餌が足りない個体だけが集まります。
- (3) 特に大事なことは、家族連れは、ともかく子どもを連れてえさを探させて下さい。餌の取り方を学習しないまま北帰させることは、将来、その個体の一生を面倒見無ければならなくなる可能性があります
- (4) その上で、厳冬期までに  
冬期湛水水田（冬・水・田んぼ）が必須に、餌がない事がおうおうに分かってきます。そこで、（田んぼのひこばえ、2番穂の確保が必須になります。そのために農家の方々のご協力を仰ぎ、耕起しない。水を張っていただく、2番穂を育てていただく、稲の生きた根っこを残す等のご支援を願ひして下さい）
- (5) 雪や氷で採餌が出来ない  
風雪で採餌出来ない等の折りに、餌付けではなく、救餌として、餌を十分に与えて下さい。

## 6 関東地方へ、雁・鴨・白鳥の大規模な越冬地を形成するために

- (1) 千葉県栄町地区を核として、越冬地の拠点を形成中です。
- (2) 印旛沼から、利根川を挟んだ両側に、冬期湛水水田のベルト地帯を形成する  
稲株を主な食糧源として、無限にあるように準備していく（持参する）
- (3) まず、白鳥群（オオハク、コハクチョウ）の渡来地と、渡来個体数を確保する。一定の数量をこすと、自然にマガンも中に紛れ込んでくる
- (4) まず、銃猟禁止からスタート 宮城県等々は、30年の意識の遅れがあります。雁では残念ながら鴨と違って、誤って銃猟されてしまいます。さすがに白鳥への発砲はできない
- (5) 空中散布も廃止を目指す

## 7 標識鳥白鳥の最近の動向

標識鳥は経年によって、順次死亡により消滅しつつあります  
若干のデータを開示します

## 8 千葉県でのコハクチョウの分布展開を推論します

- (1) コハクチョウが主体です。
- (2) 異常な個体数増加をもたらしかねない環境があります。

## 9 IISS での WEBGIS での月別渡来状況を提示する

ここまで調査できると言うことを明示するために

## 10 日本白鳥の会 HP の件

皆様のご利用方法をお聞かせ下さい。

### 送付先（メール添付先）

113-0021 東京都文京区本駒込 4-38-1-505

株式会社 トータルメディア 研究所

荒尾 稔

TEL :03-3824-6071 FAX :03-3824-5980

tmlarao@tml.co.jp

<http://www.tml.co.jp>